

マリンドリーム能生周辺整備活用等推進ビジョン

令和4年3月

糸魚川市

目 次

序章 はじめに.....	1
1. ビジョンの目的.....	1
2. ビジョンの対象範囲.....	1
3. ワークショップの内容.....	2
I 章 道の駅エリア.....	4
1. 現況.....	4
2. 課題.....	6
3. ワークショップ等で出されたアイデア.....	6
4. 実現に向けての課題等.....	9
5. アイデア図.....	10
II 章 小泊まちなみエリア.....	11
1. 現況.....	11
2. 課題.....	12
3. ワークショップ等で出されたアイデア.....	13
4. 実現に向けての課題等.....	14
5. アイデア図.....	15
III 章 弁天岩・漁港エリア.....	16
1. 現況.....	16
2. 課題.....	18
3. ワークショップ等で出されたアイデア.....	18
4. 実現に向けての課題等.....	21
5. アイデア図.....	22
IV 章 推進方策.....	23
1. エリアごとのビジョン.....	23
2. 取組体制と今後の進め方.....	27

序章 はじめに

1. ビジョンの目的

糸魚川市内の観光拠点のひとつである「道の駅マリンドリーム能生」の周辺エリアには、海水浴場や漁港、公園、キャンプ場など、海と山の恵みによる個性的な観光資源が多く点在しています。

本市では、こうしたエリア内に点在する施設や観光資源等について再構築・活性化を行い、各観光資源をつなぐことによって、エリア全体の魅力を向上させ、観光客・交流人口の増加やエリアのさらなる活性化を図るため、本ビジョンを策定します。

本ビジョンは、道の駅マリンドリーム能生周辺エリアの現状や課題について整理し、活性化の実現に向け関係者から出されたアイデアと、その実現に向けた課題を提示しています。

2. ビジョンの対象範囲

道の駅マリンドリーム能生周辺エリアを対象範囲とします。また、それぞれの特徴的な個性を生かせるよう、「道の駅エリア」、「小泊まちなみエリア」、「弁天岩・漁港エリア」に分類しました。



出典：国土地理院撮影の全国最新写真

3. ワークショップの内容

本ビジョンの策定に際しては、道の駅マリンドリーム能生周辺エリアに点在する施設や観光資源等の整備、活用について、地域住民や関係団体を交えた計3回のワークショップを実施して意見交換を行い、関係者の意見を整理しました。

回数	テーマ	内容
第1回 (R3.11.11)	各エリアの魅力・課題について	各エリアの魅力・課題を分析し、現状の把握と魅力・課題の明確化を行いました。
第2回 (R3.12.22)	整備活用等推進ビジョン(案)の方針検討	第1回の分析を用いて、今後の整備や取組方針を検討し、ビジョン作成に向けてアイデアを意見交換しました。
第3回 (R4.2.15)	整備活用等推進ビジョン(案)の確認	第2回で出た意見・アイデアを検討し、ビジョン策定に向けた内容の確認を行いました。

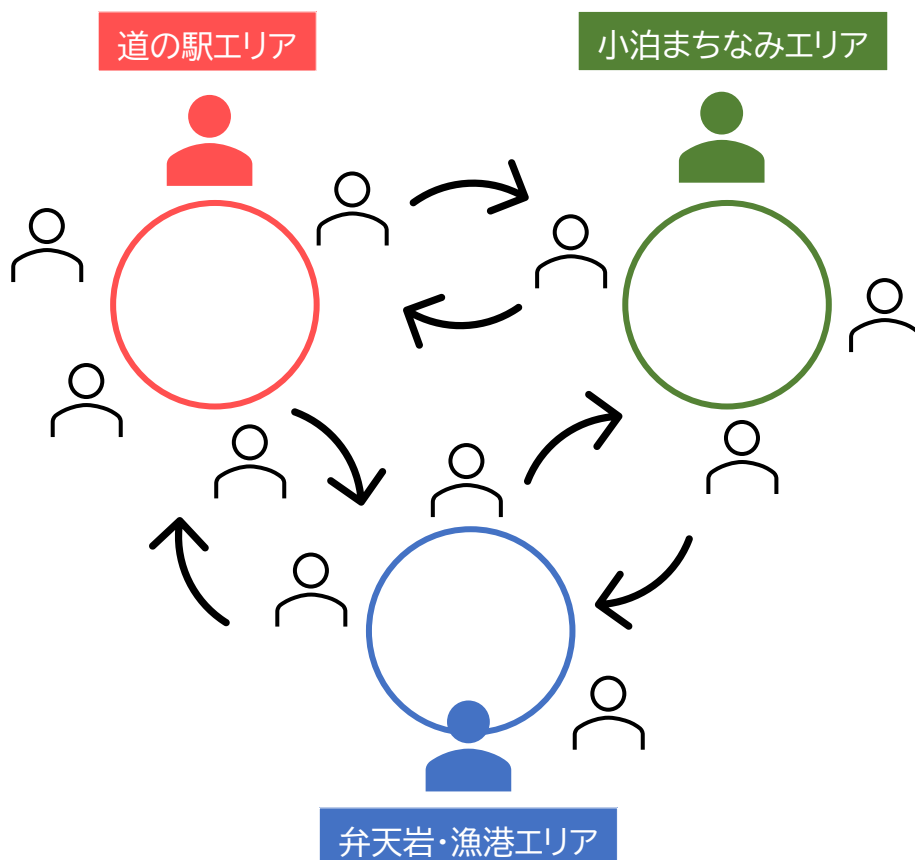


本ワークショップは「ワールドカフェ方式」で実施し、参加者全員が自身の関係するエリアだけではなく、3つのエリア全てについて意見やアイデアを出し合いました。

「ワールドカフェ方式」とは、その名のとおり「カフェ」のようなリラックスした雰囲気の中で、各テーブルに分かれて自由な意見交換を行う方式です。メンバーをシャッフルしながら対話を続けることにより、参加した全員の意見やアイデアを集めることができ、さらに発言がしやすく、新しいアイデアが生まれる可能性を広げることができます。

参加者が全てのエリアテーブルを回ることにより、共有した認識を持てることが、この方式最大の利点となります。

ワールドカフェ方式イメージ



1. テーブルを各エリアに見立て、テーマについて話し合う
2. 参加者はシャッフルしながら移動し、全てのテーブルを回る

I 章 道の駅エリア

1. 現況

道の駅エリアには、多くの施設が立地しています。また、エリアの大半が、久比岐県立自然公園区域となっています。

分類	名称
観光	道の駅マリンドリーム能生(かにや横丁、鮮魚センター、物産センター)
レクリエーション	荒崎キャンプ場、能生 B&G 海洋センター、能生海洋公園、イベント広場、アスレチック広場、すぱーく能生、かもめ公園、久比岐自転車道
文化	能生マリンホール
自然	トットコ岩
博物館等	マリンミュージアム海洋

(1) 魅力・強み

- **マリンドリーム能生の来客数**

道の駅マリンドリーム能生は国道8号沿いに立地し、来客数は年間約50万人となっており、重点道の駅に指定されています。
- **豊富な海産物**

道の駅マリンドリーム能生では、立地的環境を生かした豊富な海産物の販売を行っており、特に「かにの道の駅」として多くの観光客から認知されています。

また、本館に併設されている「かにや横丁」や「鮮魚センター」では、多くのテナントが軒を連ね、取れたての新鮮なかにや魚介類を提供しています。
- **景観やアクセス**

海沿いを走る国道8号から直結しているアクセスの良さ、日本海に面した立地、自然公園区域といった環境にあり、景観にも恵まれています。

エリア内における国道8号の昼間12時間交通量(全車上下計)は、約8千台となっています。
- **アウトドアレジャー施設**

荒崎キャンプ場には、25区画のキャンプサイトが整備されています。道の駅からは荒崎公園線で結ばれており、国道を横断することなくアクセスできます。

また、旧国鉄北陸本線の線路跡地を利用した久比岐自転車道がエリア全体をつないでおり、日本海の美しい風景を楽しみながら走ることができます。

そのほか、道の駅周辺には、アスレチックや芝生公園等の遊び場が設置されています。
- **6次産業化・インバウンド**

豊富な海産物を活用し新たな付加価値を生み出す、6次産業化を目指せる環境にあります。また、その資源はインバウンド観光の強みでもあります。



かにや横丁



「能生海洋公園」
からの眺め



荒崎キャンプ場

(2) 問題点

● 施設の老朽化

マリンドリーム能生は、整備後 30 年以上が経過しており、施設・設備の老朽化による修繕が増加しています。また、周辺施設である海の資料館越山丸は、腐食等による修繕が必要となっています。

● 施設のマッチング

マリンドリーム能生は、地域の特産品を販売するため整備された施設であり、道の駅としての機能がまだ十分に整備されていません。

また、海に面した好立地でありながら、マリンスポーツ関連のレジャー施設やアクティビティが不足しています。

● 周辺資源の活用

トットコ岩や、かもめ公園は美しい眺望景観を楽しめるスポットであるものの、広く認知されているとはいえその魅力が十分活用されていません。

● 地元住民の利用

マリンドリーム能生は観光客が多く訪れるものの、地元住民の利用が少ない状況です。

また、地元事業者との連携についても不十分な状況です。

● 駐車場の不足

お盆やゴールデンウィークには駐車場の不足により、国道8号の渋滞に影響を与えています。



展望台
(現在は老朽化により撤去)



トットコ岩



海の資料館越山丸・
マリンミュージアム海洋

2. 課題

(1) 道の駅のターゲットごとのマッチング

マリンドリーム能生は、当初は道の駅を目的に設置された施設ではないことから、道の駅機能が不十分であり、地元住民が利用する施設が混在しています。そのため、施設全体を有効活用することが難しい状況にあります。現在の利用者ニーズを捉え、ターゲットごとに必要な機能を検討して、施設のマッチングを行う必要があります。

(2) アウトドア人気やニーズの取込

当エリアは、荒崎キャンプ場や久比岐自転車道を有しており、アウトドアレジャーに関する資源が豊富に存在します。また、近年はキャンプブームやサイクルツーリズムなどの盛り上がりが見られることから、これら地域資源を活用して、アウトドアブームのニーズを取り込む必要があります。

(3) 既存資源の有効活用

当該エリア内には、能生マリンホール等の公共施設が立地しています。また、海上の見所となるトットコ岩や、周囲を一望できるカモメ公園などは、能生地域特有の地域資源ですが、十分に活用されていません。エリア全体の魅力向上に向けて、これらの既存資源を有効に活用する必要があります。

3. ワークショップ等で出されたアイデア

(1) 道の駅のターゲットごとのマッチングに向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① 「重点道の駅」としての再構築

■道の駅機能の充実と多様化

- 重点道の駅としての多機能拠点に向けた、施設の再整備
- 産学官連携に向けた、冷凍・冷蔵施設や加工場などの整備
- ユニバーサルデザインの導入
- Wi-Fi 環境整備等による利便性向上
- 電気自動車充電ステーションや RV パークの拡充
- ランドリーや温水シャワー等の設置
- 屋根付きイベント交流広場(災害時の避難所機能)の整備
- 災害時の利用も想定した、駐車場の拡張や越波対策
- 国道の渋滞解消に向けた道の駅出入口の整備

■産業の拠点化と6次産業化

- 地元の農産物や加工品の販売
- 移動販売やフリーマーケット等の出店、支援
- 地元住民やインバウンドにも対応した販売戦略
- 海洋高校生による水産加工品販売やレストラン開業
- 漁港関係者や地元生産業者と連携した、地産地消と6次産業化への取組



地元食材を集約した道の駅事例
出典：道の駅「萩しーまーと」
ホームページ

② 情報発信の拠点づくり

■エリア全体の情報発信

- インバウンド対応を含む総合案内所等、エリア全体の情報発信機能の充実
- 道の駅の情報発信や、市内イベント等の情報発信
- 住民や事業者によるおもてなしの心の育成

(2) アウトドア人気やニーズの取込に向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① キャンプ場の充実

■新たなアウトドアレジャーの環境整備

- Wi-Fi 等、ワーケーションに必要な環境整備
- 新しいニーズを捉えたテントサウナ等の設置
- キャンプ場拡張やコテージ新設



テントサウナの設置事例

出典：ノーラ名栗ホームページ
(埼玉県)

② サイクルツーリズムの充実・活用

■サイクルツーリズムに対応した環境整備

- E-BIKE*や電動キックボードのレンタル及び充電ステーションの設置
- フォトスポットや休憩所、案内看板の設置
- グリーンスローモビリティや電動キックボード等によるエリア内の移動手段確保に向けた整備

■自転車道の活用

- トンネルを活用した情報発信やライトアップ等のイベント開催
- サイクルコースの設定やマップ作成による活用促進
- サイクリスト拠点機能の充実



サイクル拠点の取組事例

出典：HOTEL TAITO ホームページ (北海道)

※E-BIKEとは

スポーツバイクに電動アシストユニットを取付した自転車

(3) 既存資源の有効活用に向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① トットコ岩の活用

■眺望景観の魅力発信

- 看板設置やフォトコンテスト開催



夕日とトットコ岩

出典：糸魚川ユネスコ世界ジオパークホームページ

② かもめ公園の活用

■公園の利用促進

- コミュニティの場としての利用促進
- 眺望景観 PR と交通アクセスの周知



かもめ公園から見た桜と海

出典：小泊地区公民館だより

③ 既存施設の活用

■様々なニーズに対応したスペースの設置

- サテライトオフィスやコワーキングスペースの設置
- 大学生、高校生が利用できるスペースの拡充
- 能生マリンホール内に子どもの室内遊び場設置
- すぱーく能生や能生 B&G 海洋センターの新たな用途での利用検討(グランピング、全天候型 BBQ 施設、有料釣り堀)

■新たな賑わい創出

- マリンホールや屋外ステージを活用したイベントの実施



ワークスポットの設置事例

出典：道の駅開国下田みなとホームページ（静岡県）

4. 実現に向けての課題等

- 道の駅の再整備には多額の資金が必要であり、財源の確保が必要です。
- 道の駅マリンドリーム能生は年間約50万人の来客数を有するとともに、国道や海に面する立地環境も良く、ポテンシャルが十分高いことから、PPP/PFI*等の手法による民間の活力の導入により、多機能拠点づくりに取り組むことが考えられます。
- 公園の再整備に合わせて、公園区域内に専門的な民間事業者による賑わい施設を導入することも可能となる Park-PFI*手法の活用も考えられます。
- 国道8号への出入口の整備に関しては、入口専用道路の拡幅(大型バス通行可、バス停移動)や上越方面専用出口の新設等について、国や県との調整や許可等を通して取り組む必要があります。
- 多様なニーズを取り込んでいくために、地域の各種産業の協力が必要です。

道の駅全国モデル事例

【道の駅「萩しーまーと」：山口県萩市】

- ・ 隣接の魚港で水揚げされた海産物が直接店頭に並ぶ新鮮さを特長に**地元のニーズにこたえる「道の駅」**を展開
- ・ **地産地消への取組やストアコントローラ（POSレジ集中管理システム）の導入**などによる徹底的なローコストオペレーションの実施
- ・ 地元加工業者と連携して生み出した**プライベートブランド商品の開発、地元高校とタイアップした製品づくり**を実施
- ・ 魚食普及・食育の拠点機能として、**地域活動**を実施



道の駅全国モデル事例

【道の駅「内子フレッシュパークからり」：愛媛県内子町】

- ・ **地場産物を「独自ブランド」商品**として販売。運営も生産者自らがを行い、商品開発・品質管理・イベント企画運営までを実施
- ・ 毎月の**農産物の旬をテーマにしたイベント**を企画実行
- ・ 「からり」の運営する第3セクターと町が連携し、**トレーサビリティの導入や環境保全型農業等、時代のニーズに応じた農業の取組**を展開



PFI 事業事例

【前橋市新設道の駅整備運営事業：前橋市関根町、田口町地内】

- ・ 道の駅全体を対象とした施設のうち、**民間事業者が独立採算事業として提案する施設の設計、建設、維持管理、運営業務を PFI 特定事業の範囲として公募**



Park-PFI 活用事例

【滋賀県営都市公園（びわこ文化公園（文化ゾーン））、滋賀県営都市公園（びわこ地球市民の森）：滋賀県】

- ・ **指定管理者制度と Park-PFI を併用**し、公園全体の一元管理と公園施設の適切な更新・整備を行い、都市公園の質的向上を図る



※「PFI(Private Finance Initiative:プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」とは公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。民間の資金、経営能力、技術的能力を活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について、PFI 手法で実施します。

出典：内閣府 PPP/PFI とは

※「P-PFI」とは

飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を公募により選定する制度で、都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図る新たな整備・管理手法です。

出典：国土交通省 都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン



II章 小泊まちなみエリア

1. 現況

小泊まちなみエリアは、港町の斜面に段々と住宅が立ち並ぶ風景が特徴的です。また、漁師町の特性を備える地域コミュニティや、地域の絆が強い地域となっています。

分類	名称
レクリエーション	久比岐自転車道

(1) 魅力・強み

- **周辺環境**

海や漁港の近くに立地する住宅地 184 世帯、422 人(令和3年2月1日現在)が居住しています。

- **景観**

斜面に段々と住宅が立ち並ぶ、景観が素晴らしい港町であり、典型的な漁師町の面影を残しています。



小泊地区の町並み

裏山や自転車道からの眺めが良く、夕日と漁港の幻想的な景色が楽しめます。

- **人の絆・地域コミュニティ**

地域の絆が強く、団結力があります。また、伝統行事を大事にしながら地域づくりプランを作成するなど、将来へ向けた取組も行っています。

- **漁師町の特性**

漁師が多く住むエリアであり、漁師ならではの技術や旬を生かした食文化があります。

- **特徴的な路地**

迷路のような路地は歩く楽しみがあり、小泊地区ではまち歩き案内を作成しています。

(2) 問題点

- **道路環境**

地域特有の急な斜面に作られているため、狭く急な道路となっています。そのため、車が入りにくい箇所があります。

- **人口減少・高齢化**

人口減少が進み、地域の高齢化や単身高齢世帯の増加が懸念されています。

- **空き家の増加**

空き家が増加しており、地域の活力減退や防災・防犯への懸念があります。

- **周辺施設の不足**

商店や飲食店、宿泊施設、駐車場、案内板が不足しています。

- **まち歩きによる観光客への対応**

地域の防犯やプライバシーへの配慮、住民への周知が必要です。



小泊地区の空き家
出典：いえかつ糸魚川
ホームページ

2. 課題

(1) 特色ある町並みの保全・情報発信

小泊地区は、斜面に段々と建屋が立ち並び、典型的な漁師町の町並みを残しています。また当地区からは、日本海に沈む美しい夕日を眺めることができます。そのため住民との協力の下で、日々の生活や空き家の有効活用により、これらの特色ある町並みや眺望景観を保全するとともに、情報を発信することが必要です。

(2) 空き家の活用

本地区は、祭り等の伝統行事を大切にしており、人と人との絆が強い地区となっています。一方で、地区内では人口減少・少子高齢化が進んでおり、空き家の増加が課題となっています。市外からの若い世代の移住など、空き家の有効活用が必要です。

(3) 新たな交流人口の創出

交流人口の創出にあたっては、観光客をはじめとした地区外の方々に、本地区の魅力を知ってもらう必要があります。そのため、まち歩きのメニュー提供等により、多くの人に本地区を訪れてもらうことが必要です。

3. ワークショップ等が出されたアイデア

(1) 特色ある町並みの保全・情報発信に向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① 景観保全・情報発信

■眺望景観の情報発信に向けた環境整備

- 眺望景観を伝えるフォトスポット等の整備

■景観保全

- 小泊地区特有の地形と町並みの保全



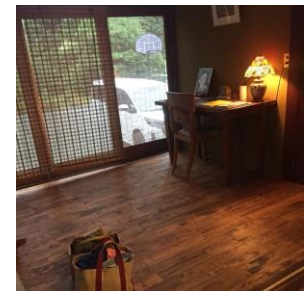
小泊地区の景観

(2) 空き家の有効活用に向けたアイデア【ソフト活動】

① 空き家の活用

■空き家活用に向けた具体化の検討・促進

- カフェや雑貨店の出店、海産物販売所等による利用の促進
- 地元住民や観光客が立ち寄れる休憩所や地区伝承会館としての活用
- ゲストハウスや民泊施設としての活用
- サイクリストをターゲットにした宿泊施設としての活用
- 定住促進に向けた貸出
- 海洋系大学等の教育機関と連携した、インターンシップ受入や学生寮としての活用



ゲストハウス事例

出典：白雪農園ホームページ
(富山県)

(3) 新たな交流人口の創出に向けたアイデア【ソフト活動】

① 特徴的な路地の活用

■特徴的な路地の活用によるまち歩き

- まち歩きのモデルコース作成
- コースの案内サインや順路表示の設置
- マップ作成等によるPR
- コースを活用したイベントの実施
- 利用者に向けたマナー喚起・ルール作り



ウォーキングマップイメージ

出典：安曇野さんぽホームページ
(長野県)

② 漁師の住む漁師町文化の活用

■漁師町としての地域資源活用

- 漁師町の特性や風習を生かしたイベントを開催・PR
- 釣り場の運営・指導、魚さばき体験、昼セリガイドなどの各種体験メニュー提供に向けた取組の推進

③ 周辺エリアとの連携

■隣接エリアとの連携

- 道の駅に「まち歩きマップ」を設置
- エリア全体の「まち歩きマップ」作成による周遊観光の推進
- 道の駅駐車場を利用したまち歩き

4. 実現に向けての課題等

- 空き家の活用については、地区と連携しながら民間事業者のノウハウ等を活用し、活用方法の検討を行うことが考えられます。
- 町並み保全のルール作りやまち歩きガイド育成に向けて、地区で一体となった取組が必要となります。
- 地区住民の理解と協力を得ながら、取組を進める必要があります。

まちあるき・町並み保全事例

【伊根の舟屋：京都府伊根町】

- ・ 舟屋ガイドが町並みを案内
- ・ 海上タクシーや遊覧船による海上観光を展開
- ・ 伊根町コミュニティサイクルや E-BIKE をレンタル
- ・ 「まちづくりの手引き」を作成し、景観保存の取組方法を確立



空き家活用事例

【伝統文化体験型民泊施設：福井県鯖江市】

- ・ 鯖江市、鯖江商工会議所、わどう（地域事業主）、LIFULL（不動産情報サービス事業）、楽天 LIFULL STAY（民泊・宿泊運用代行業）が空き家問題の解決、雇用の創出、観光需要の創出に向けて官民が相互に連携・協力
- ・ 空き家を活用した民泊施設のモデルケースの開発や地域住民を対象とした民泊セミナーを開催



5. アイデア図



Ⅲ章 弁天岩・漁港エリア

1. 現況

弁天岩・漁港エリアは、能生漁港や能生海水浴場等のアクティビティが楽しめる空間を有しています。また、上越漁業卸売市場では昼セリの見学ができます。

国道8号から目を引く弁天岩は、本エリアのシンボルとなっており、弁天岩に立つ能生港灯台は「恋する灯台」に認定されています。

また、能生白山神社や能生歴史民俗資料館は、エリア内の歴史・文化を伝える施設として重要な役割を担っています。

分類	名称
観光	能生漁港、上越漁業協同組合卸売市場、能生中央商店街、能生港灯台、曙橋
レクリエーション	能生海水浴場、久比岐自転車道
文化	能生白山神社、能生歴史民俗資料館
自然	弁天岩、大王あじさい園

(1) 魅力・強み

- 能生漁港・上越漁業協同組合卸売市場

能生漁港で水揚げされる海産物は多種多様であり、上越漁業協同組合卸売市場では 15 時から開始される昼セリを見学することができます。

また、能生漁港では、普段から多くの釣り人が来訪しています。

- マリンスポーツに適した環境

能生海水浴場では、弁天岩と曙橋の景観を眺めながら、海水浴を楽しむことができます。

また、遠浅で駐車スペースも広いことから、手軽にマリンスポーツを楽しめる環境にあります。



上越漁業卸売市場

出典：糸魚川なりわいネットワークホームページ



能生海水浴場

出典：糸魚川観光協会ホームページ

- **弁天岩の景観**

弁天岩は、国道8号からでも目を引く、能生海岸のシンボルとなっています。

その弁天岩に立つ能生港灯台は「恋する灯台」に認定されており、「燈の守り人」プロジェクトによるキャラクター化などの取組が行われています。

また、紅い欄干の曙橋は周辺の景観を引き立たせています。



能生港灯台



燈の守り人

出典：「恋する灯台プロジェクト」ホームページ

- **周辺の自然環境**

大王あじさい園や弁天岩など、様々な角度から海の景色を楽しむことができます。

尾山では眺望や暖帯と寒帯が両立した植生を見ることができます。

- **豊かな文化**

能生白山神社の本殿は国指定重要文化財であり、拝殿のかやぶき屋根や新潟の名水に選ばれている蛇の口の水等の観光資源があります。

(2) 問題点

- **周辺資源の活用**

能生海水浴場の利用者の多くは観光客であり、地元住民の利用は少なくなっています。

また、曙橋の老朽化やその周辺の外灯が不足しているといった状況があります。

そのほか、能生白山神社、能生歴史民俗資料館、大王あじさい園についても広く周知・活用がされていません。

また、能生漁港は海産物の販売を行っておらず、地元の魚を手に入れることができません。

- **観光施設等の減少**

商店や飲食店が減少し、滞在できる場所が求められています。また、弁天岩、曙橋などを海上から見学できるような仕掛けや観光案内板等が不足しています。

- **利用者のマナー**

バーベキューのゴミを放置するといった問題があります。

また、漁港周辺での釣りやジェットスキーの走行マナーが問題となっています。

- **海岸保全・整備**

漁獲海産物減少や変化、漁港の消波ブロックが沈む、海水浴場に砂が溜まるなどの問題があります。

2. 課題

① 漁港・海水浴場の利活用

当エリアの漁港内には卸売市場もあり、新鮮な魚介類が水揚げされているなど活気に満ちていますが、一般観光客が利用・見学しやすい環境が必要になっています。また漁港内では釣り人も多く見られますが、漁船とのトラブル等も発生しています。漁港や海水浴場は、多面的な機能を持っているものの、観光面で十分に発揮されていないことから、関係者と一体となった利活用の検討が必要です。

② 自然・文化資源の有効活用

当エリアには豊かな自然・文化資源となる弁天岩や能生白山神社、大王あじさい園があるとともに、マリンスポーツが楽しめる能生海水浴場があります。これら魅力的な地域資源を生かして、それらのポテンシャルを有効に活用することが必要です。

③ 周辺施設とのネットワーク構築

弁天岩や漁港、能生海水浴場等と道の駅であるマリンドリームとは距離があることから、連携強化が不可欠であり、能生地域全体の活性化に向けて施設間の回遊性向上を図るため、周辺施設とのネットワークの構築が必要です。

3. ワークショップ等で出されたアイデア

(1) 漁港・海水浴場の利活用に向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① 漁港・卸売市場の充実

■新たな利活用に向けた施設整備

- 地元魚のPRに向けた常設展示場等の設置
- 釣り専用スペースの整備検討
- 道の駅と連携した市場食堂などの検討

■特性を生かした取組の展開

- 昼セリ見学を含めたツアーの開催
- 漁業体験会の開催
- 道の駅と連携した6次産業化への取組

■漁港内での釣りへの対応

- マナー向上に向けたルール作りなどの取組
- 釣り客が周辺施設を利用しやすい仕掛けづくり



2階通路からのセリ見学事例
出典：TOYAMA STYLE ホームページ（富山県）



地元漁師による漁家レストラン事例
出典：TOYAMA NET ホームページ（富山県）

② 海水浴場の新たな魅力創出

■設備の充実と環境整備

- 遊漁船及びヨットのマリーナ整備の検討
- 通年利用できる休憩所等の設置
- 砂浜の再生

■マリンスポーツの提供

- 漁港とマリンスポーツの共存にむけたルールづくり
- ダイビングやカヌー等のアクティビティ提供

■賑わい空間の創出

- 音楽フェスやイベント開催
- 飲食店の出店



海洋高校でのマリンスポーツ実習風景
出典：海洋高校 ホームページ

(2) 自然・文化資源の有効活用に向けたアイデア【ハード整備】【ソフト活動】

① 弁天岩の魅力向上

■弁天岩周辺の再整備

- 曙橋の再整備と周辺のライトアップ
- 案内サインの充実
- フォトスポットや憩いの場の設置
- 漁港から弁天岩に続く遊歩道の設置
- 廃墟の撤去や温冷施設(スパ)の設置

■魅力発信

- 恋する灯台や「燈の守り人」キャラクターと連携した情報発信の拡充



「恋する灯台」PR 曙橋ライトアップ風景
出典：上越・糸魚川タイムス
ホームページ

② その他周辺資源の活用

■文化資源等との連携

- 白山神社、尾山、能生歴史民俗資料館、大王あじさい園等を含めたエリア全体の周遊コースの設定や周知、ガイドの育成
- 遊覧船の運行等、海上観光の検討

■能生中央商店街との連携

- イベントの同時開催やパンフレットの設置

(3) 周辺施設とのネットワーク構築にむけたアイデア【ソフト活動】

① 周辺エリアとの連携

■道の駅との連携

- マリンスポーツや遊覧船の受付・案内所を道の駅に集約
- ポスターの掲示やパンフレットの設置
- 道の駅と海水浴場での駐車場の相互活用
- レンタサイクルによるエリア周遊

■小泊まちなみエリアとの連携

- 空き家を活用した休憩所やシャワースペースの設置検討

4. 実現に向けての課題等

- 弁天岩・漁港エリアの更なる利活用による活性化に向けては、漁業権等をはじめとした関係機関や法令との調整を通して、各種整備やイベント等の実施に取り組む必要があります。
- マリーナ整備等の財源確保に向けては、民間企業活動等を積極的に誘導し、本エリアに興味を持ってもらい、民間活力を活用することが望ましいと考えられます。
- 釣りのマナー向上やルール作り、地元飲食店等の出店、各種企画の実施などについては、関係者と協力しながら地区で一体となって取り組むことが必要となります。

漁港の有効活用事例

【富来漁港：石川県羽咋郡志賀町】

- ・ 水域を蓄養・養殖に活用するとともに**漁港用地に飲食店等を設置**
- ・ 補助用地と単独用地の交換により、飲食店（回転寿司）と直売所を開店し、蓄養・養殖した新鮮な魚介類を来訪者に提供
- ・ この結果、漁港来訪者の大幅な増加とともに、新たな雇用創出と漁業者の所得向上を実現

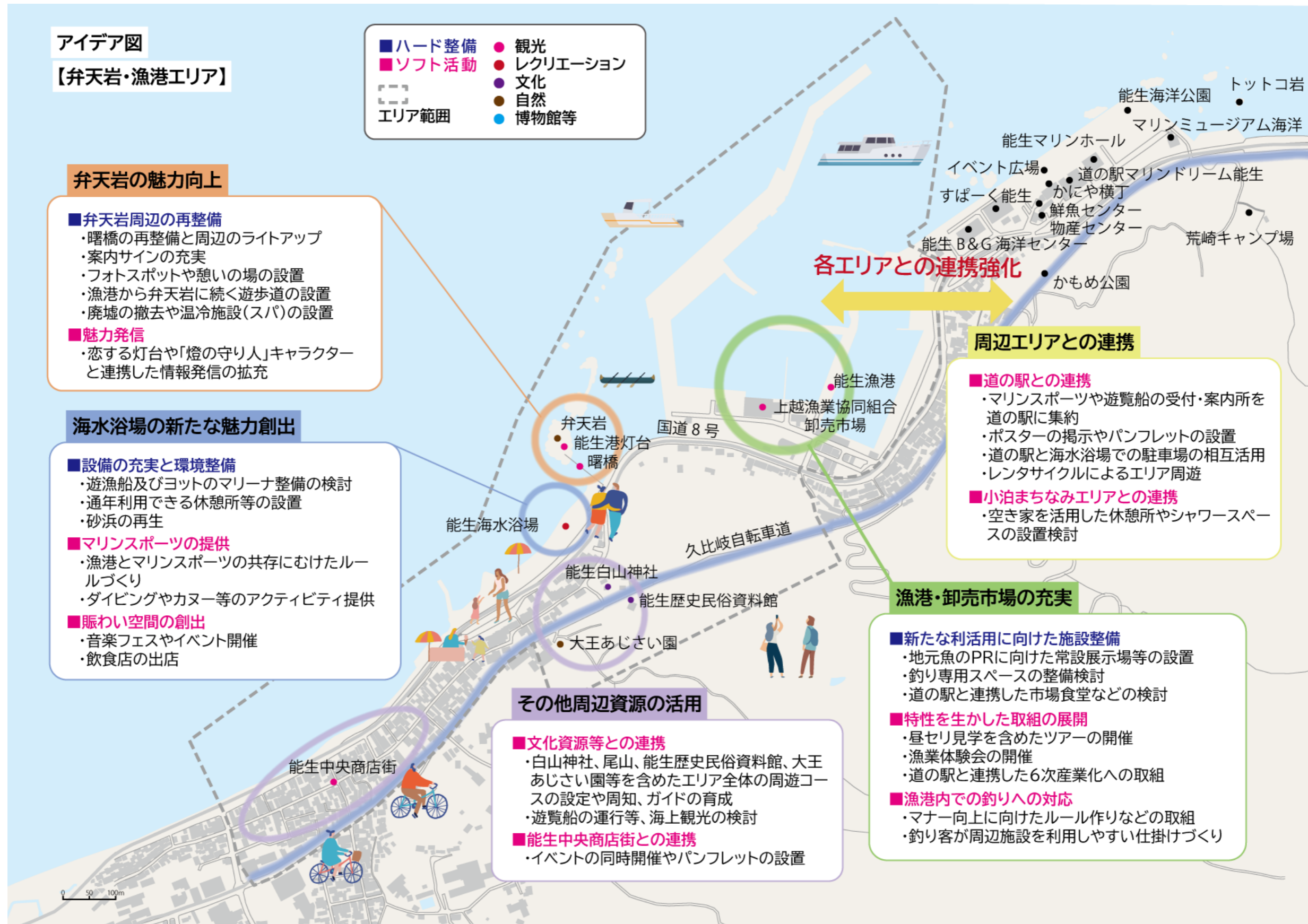


PFI 事業事例

【神戸フィッシャリーナ施設運営等事業：垂水漁港（神戸市管理）】

- ・ プレジャーボートを漁船と分けて収容し、漁港施設の適正な維持管理を図るため、漁業の振興と海洋レクリエーションの共存を目的とした「神戸フィッシャリーナ」の**整備・管理を PFI 方式で実施**
- ・ 国の補助事業（漁港利用調整事業）により、神戸市が防波堤 275m を整備





IV章 推進方策

1. エリアごとのビジョン

3エリアでのアイデアをまとめ、全体の推進の方向性となる将来目標像を、下記の通りまとめました。

(1)道の駅エリア

【将来目標像】

地域内外のみんなが楽しめる快適な多機能拠点づくり

市外からの観光客だけでなく、住民にとっても魅力的で楽しめるエリアであるとともに、産業拠点として賑わいにあふれ、施設の利便性が高く快適な多機能拠点づくりを目指します。

【課題】

1.道の駅のターゲットごとのマッチング

2.アウトドア人気やニーズの取込

3.既存資源の有効活用

【アイデア】 ハード整備 ソフト活動

①「重点道の駅」としての再構築

■道の駅機能の充実と多様化

■産業の拠点化と6次産業化

②情報発信の拠点づくり

■エリア全体の情報発信

①キャンプ場の充実

■新たなアウトドアレジャーの環境整備

②サイクルツーリズムの充実・活用

■サイクルツーリズム対応した環境整備

■自転車道の活用

①トットコ岩の活用

■眺望景観の魅力発信

②かもめ公園の活用

■公園の利用促進

③既存施設の活用

■様々なニーズに対応したスペースの設置

■新たな賑わい創出



(2) 小泊まちなみエリア

【将来目標像】

景観の素晴らしさを活かしたまち歩きによる周遊観光

特色ある町並み環境や地域コミュニティにより、その魅力を観光客にも伝え、交流人口の拡大と周遊観光を目指します。

【課題】

1. 特色ある町並みの保全・
情報発信

2. 空き家の活用

3. 新たな交流人口の創出

【アイデア】 ハード整備 ソフト活動

① 景観保全・情報発信

■ 眺望景観の情報発信に向けた環境整備

■ 景観保全

① 空き家の活用

■ 空き家活用に向けた具体化の検討・促進

① 特徴的な路地の活用

■ 特徴的な路地の活用によるまち歩き

② 漁師の住む漁師町文化の活用

■ 漁師町としての地域資源活用

③ 周辺エリアとの連携

■ 隣接エリアとの連携



(3) 弁天岩・漁港エリア

【将来目標像】

漁港・海岸を活かした人を呼び込む海まちづくり

漁港・海岸が有する様々な自然・文化資源を活用し、磨き上げを行うことで、多くの観光客を呼び込む海の観光エリア創出を目指します。

【課題】

1. 漁港・海水浴場の利活用

2. 自然・文化資源の有効活用

3. 周辺施設とのネットワーク構築

【アイデア】 ハード整備 ソフト活動

① 漁港・卸売市場の案内

- 新たな利活用に向けた施設整備
- 特性を生かした取組の展開
- 漁港内での釣りへの対応

② 海水浴場の新たな魅力創出

- 設備の充実と環境整備
- マリンスポーツの提供
- 賑わい空間の創出

① 弁天岩の魅力向上

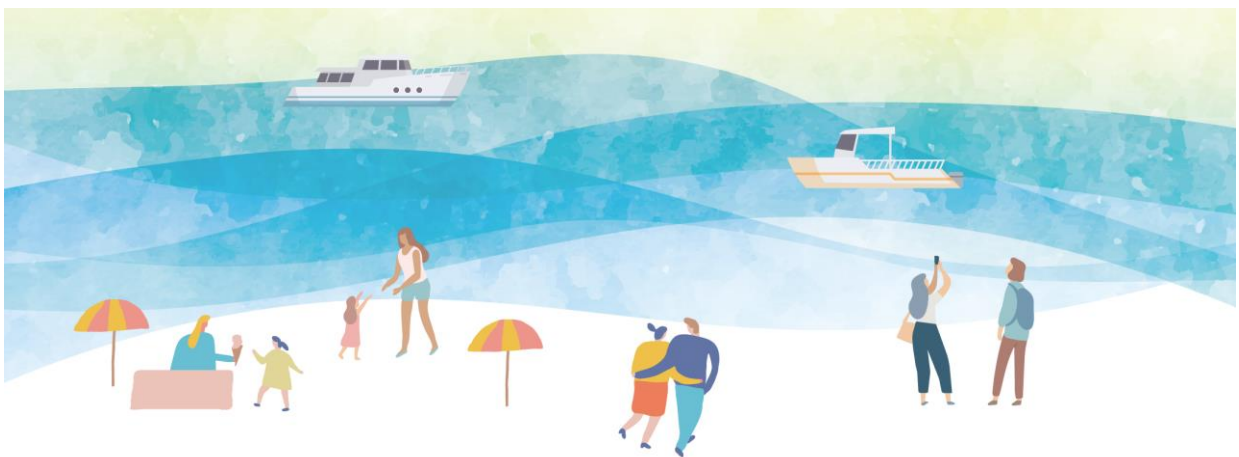
- 弁天岩周辺の再整備
- 魅力発信

② その他周辺資源の活用

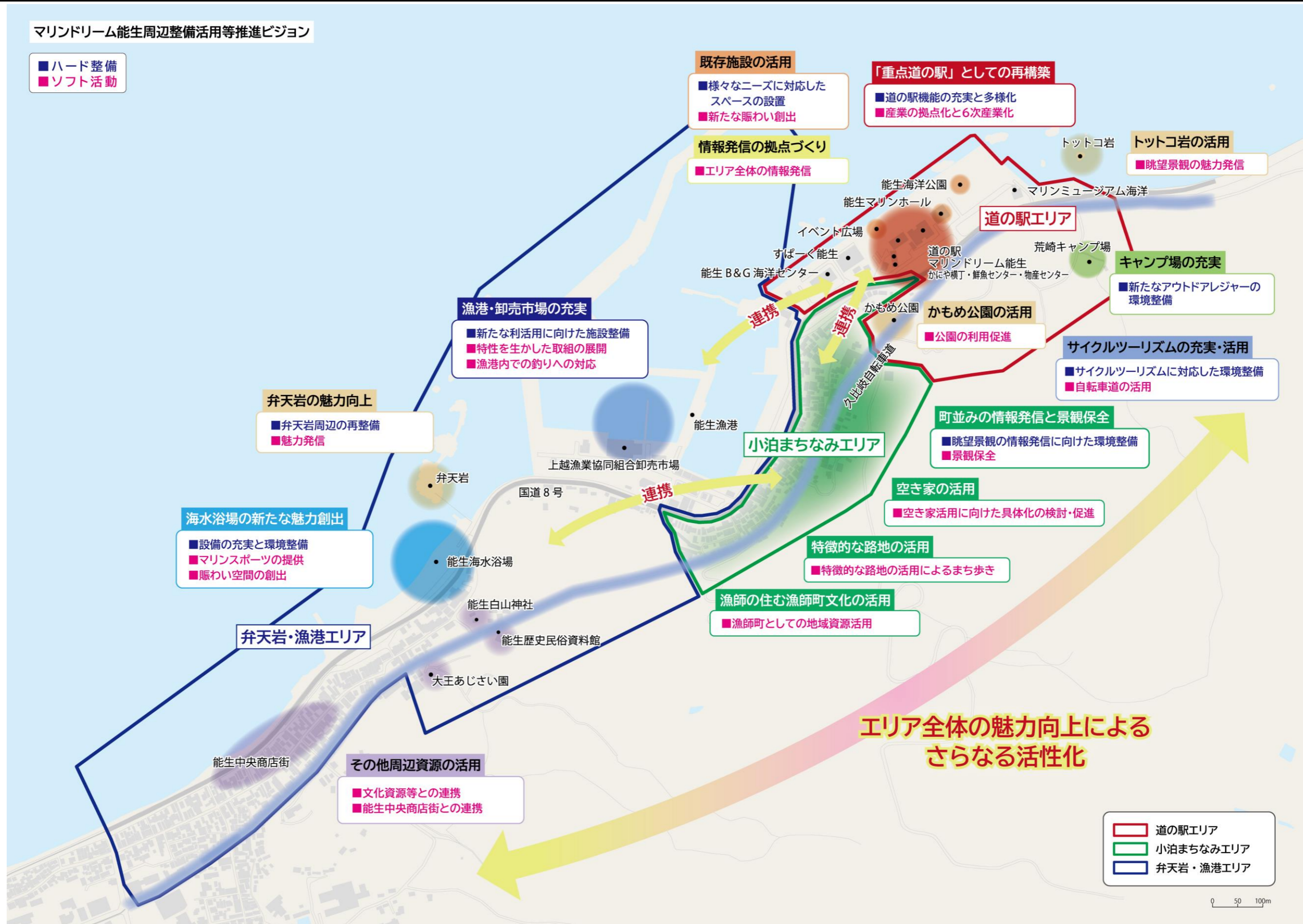
- 文化資源等との連携
- 能生中央商店街との連携

① 周辺エリアとの連携

- 道の駅との連携
- 小泊まちなみエリアとの連携



(4) エリア全体のアイデア図



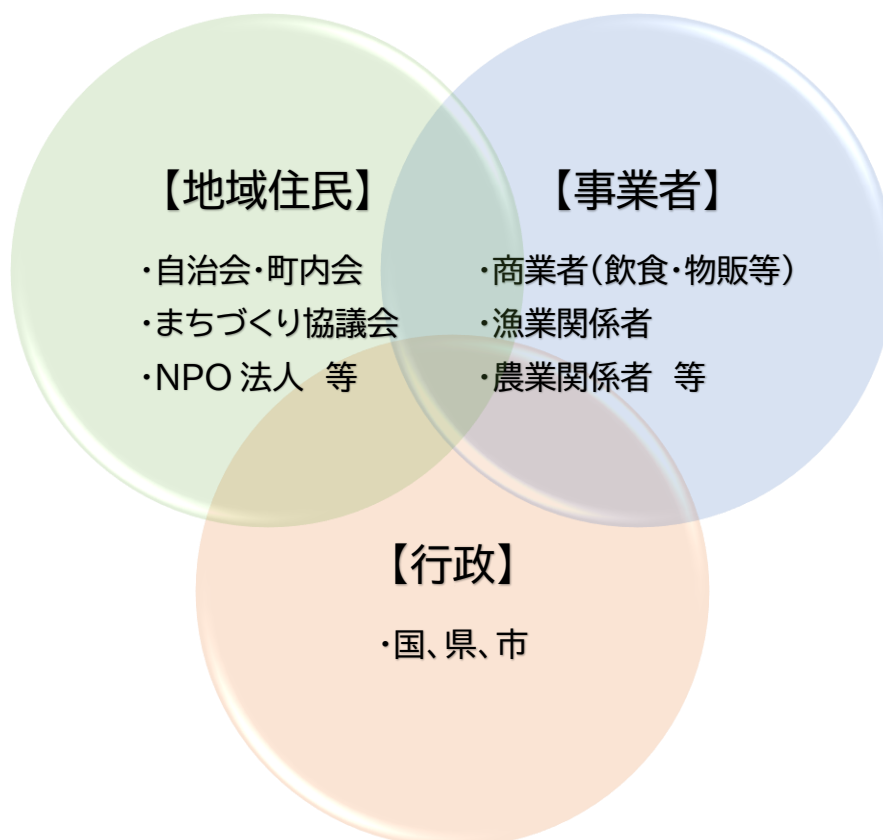
2. 取組体制と今後の進め方

(1) 取組体制

現在、能生地区や小泊地区では、地区内でのワークショップ等を通して地域づくりプランが策定されているなど、様々な主体によるそれぞれの特長を活かした自発的なまちづくりが進められています。

本ビジョンの実現に向けては、行政だけでなく、地域住民や、商業・漁業など様々な関係者がプレイヤーとして関わりながら、将来目標像に向けてモチベーションを高め合い、一体となってエリア全体の活性化を進めていく必要があります。

主体	それぞれの役割
地域住民	<ul style="list-style-type: none">・行政、事業者と協働し、地域一体となって魅力化を進めます。・地元の考え方や意識を変えて、エリア活性化のための取組に積極的に参加します。・地域外から訪れる人々をもてなす体制づくりやまちづくりに関わる人材の育成に取り組めます。
事業者	<ul style="list-style-type: none">・事業者間の連携を行うとともに、エリア活性化のための取組に積極的に参画します。・エリアの魅力向上に向けて、新たな発想の下で積極的な事業展開を図ります。・可能な施設・環境整備に貢献します。
行政	<ul style="list-style-type: none">・関係者と協働しながら、必要な施設・環境整備を促進します。・施策に必要な財源を確保するとともに、関係機関との調整を図ります。・本エリアの更なる活性化のため、専門家によるアドバイスを提供するとともに情報発信を強化します。



(2) 今後の進め方

令和3年度にビジョンを作成し、令和4年度以降に関係者による協議会の設立、整備計画の作成を行い、順次事業実施につなげていきます。

整備計画の作成では、事業スケジュールや事業費の確認、事業主体の検討を行います。

